北海道医報購読料年間3,000円。北海道医師会員にあっては会費の中に含まれています。

季節風

トラコーマが性病の主役
―新性感染症時代―

情報広報部　山本　直也

昭和20年代の“耐えがたきを耐え、忍び難きを忍び”の占領期の大混乱の国難の時代に飢餓と貧困の中で結核を中心とした感染症が猖獗をきわめ蔓延したが、現在60歳代以上の日本人にとって、その当時の急性結膜炎のトラコーマは日常のものであった記憶が生々しい。そのトラコーマが性感染症としてこの平成の10年間に密かにしかも急激に流行し始めていることを、まだ多くの日本人は気づいていない。

★　★　★

トラコーマは偏性細胞寄生性のリケッチャのクラミジア目に属し、Chlamydiae trachomatisが一般分類名でそのほかクラミジアの仲間には市中肺炎の起因菌の第4位を占めるCh．ニューモニア、鳥類の病気オーム病、そしてそ径リンパ肉芽腫らが知られている。同様にリケッチャ目の方では発疹チフス、恙虫病、ロッキー山紅班熱、Q熱、塹壕熱らが知られており、これらの疾患は節足動物によって媒介され、テトラサイクリン、マクロライド系抗生剤が著効を示すこと、他の動物では病原性は弱く人間にはかなり強い病原性を呈することが歴史的に知られている。このリケッチャとしてのクラミジアは形態的には細菌と差はないが、重要な二つの酵素を欠くために他の生きた細胞に寄生し、この点においてウイルスと同類と言える。節足動物の胃腸上皮細胞に主に寄生し、ヒトにおいてはリケッチャが血管内皮細胞その他細網内皮細胞で増殖し特有の病理組織学的変化を起こすことが知られているが、最近、動脈硬化の粥状病変部位にCh．ニューモニアが常在し動脈硬化のトリッガーではないかと改めて研究が行われているが、潰瘍病変におけるH.B．ピロリ菌のことを考えるとき胸躍る話題といえる。

★　★　★

話は性感染症に戻るが、泌尿器科・婦人科の感染症専門家よりこの10年警告がなされてきている。クラミジア感染の女性が男性の3倍近く約100万人と推定され、キャバクラ・風俗・オーラルセックス・援助交際らの言葉に見られる世の風潮の中で、10～20代の若い女性に蔓延し、一般家庭へそして咽頭・喉頭、上気道から性器・腹腔内感染・不妊・流産・早産とリケッチャ独特の表面的には無症状と言ってよい軽度な症状ゆえに、急激な流行を来たしている。HIV／エイズも現在約8,000人、5年後に5万人に爆発かと予測されており、旧来の細菌性の性病（淋病、梅毒ら）からウイルス主体（クラミジア、ヘルペス、コンジローム、エイズ、B型肝炎）の性感染症の新時代を今や迎えている。

性病のキーワードは女性・婦人科・上半身・ウイルス・無症状・一般家庭というところにある。予防医学の重要性が急浮上してきている所以である。